

而走、已迎得太和公主、至雲州

と曰へり、斯く舊唐書本紀には奏の至りしを二月の事とせるが、然も石雄の烏介可汗を破りしが正月なりしは疑無く、新唐書本紀には

三年正月庚子、天德軍行營副使石雄、及回鶻戰于殺胡山敗之

と記し、唐會要にも

會昌三年正月、諸軍大破回鶻於殺湖(胡之誤)山、就虜帳中、奉太和公主、歸於我

通鑑の記する所亦同義なり、此の戰の有様は兩唐書石雄傳・新唐書回鶻傳等の載する所に譲るべきが、茲に其の一節を引きて其の大略を見、兼て此の時烏介可汗が何れの地に其の牙營を置きしものなるかを考ふるに、舊唐書石雄傳には

三年回鶻大掠雲朔北邊、牙於五原、沔以太原之師、屯於雲州、沔謂雄曰、……雄受教……月暗夜發馬邑、徑趨烏介之牙、時虜帳逼振武、雄既入城(振武城)、登堞視其衆寡、見氈車數十、從者皆衣朱碧、類華人服飾、雄令謀者訊之、此何人、虜曰此公主帳也、……雄乃大率城內牛馬雜畜及大鼓、夜穴城爲十餘門、遲明城上立旗幟、炬火、乃於諸門、縱其牛畜、鼓譟從之、直犯烏介牙帳、炬火燭天、鼓譟動地、可汗惶駭莫測、率騎而走、雄率輕騎、追至殺胡山、急擊之、斬首萬級、生擒五千、羊馬車帳皆棄之而去、遂迎公主、還太原

と記し、新唐書同傳も亦之に據り、同書回鶻傳にも

沔與天德行營副使石雄、料勁騎、及沙陀契苾等雜虜、夜出雲州走馬邑、抵安衆塞逢虜、與戰破之、烏介方薄振